

令和5年度第3回地域部活動検討委員会【会議要旨】

開催日時 令和6年3月15日（金） 14：00開会 16：10閉会

開催場所 みよしまちづくりセンター 1階会議室

出席委員 東川委員長，藤田副委員長，村上委員，藤原委員，吉浪委員，助木委員，今田委員，長尾委員，片上委員，山崎委員

事務局 三次市教育委員会文化と学びの課，学校教育課，地域振興部
迫田教育長，宮脇教育次長，矢野部長，田村課長，山西課長，藤本課長，信田係長
山本指導主事，横山部活動地域移行総括コーディネーター

- 次 第
- 1 開会
 - 2 報告・協議
 - 3 その他
 - 4 閉会

1 開会・挨拶

藤本課長： ゴールイメージの無い課題に向けて，生徒にとってより良い形となるよう，それぞれの立場から様々な角度で実施に向けた意見をいただきたい。

2 報告

(1) 部活動に関するアンケートについて報告（事務局説明）

- ① 資料1「小学校5，6年生」のアンケート
- ② 資料2「中学校1，2年生」のアンケート
- ③ 資料3「①，②の保護者」のアンケート
- ④ 資料4「中学校教職員」のアンケート

◆アンケート報告に係る質問

Q) アンケートの概要は分かった。検討に資する自由記述はなかったか？

A) ・資料の項目に付随した記述回答はあるが，児童・生徒アンケートに自由記述欄は設けていない。保護者の課題や心配なことの自由記述欄には，「子どものやりたいことを応援したい」という思いが多かった。また，「休日の部活動は自由参加でも良いのでは」という意見もあった。

・ハラスメントなど地域の指導者の関わり方を心配したり，競技志向が過ぎる指導の方向性にならないように心配したりしている意見もあった。

Q) 2年前のアンケートとの比較はどうか？

A) 細かな比較はできていない。大人や地域と一緒に行う活動について，肯定的に捉えている回答が多かった。また，教職員については，部活動移行のニュースが多くなってきたこともあり，2年前と比較して指導者として関わる際の回答に報酬の必要性についての意識が高まってきた。

(2) 取組状況について報告（事務局説明）

- ①三和地域について（資料5）

②甲奴地域について（資料なし）

- ・三和，甲奴地域について，運営のアウトラインとして「参加者，指導者，活動時間，活動場所，対象部活動，費用負担，保険」の項目により，取組状況を報告。
- ・両地域とも，運営主体と連携して進めている。運営財源と指導者確保が大きな課題ととらえている。
- ・甲奴の野球には市外などから参加したいという声もある。

③吹奏楽部について（資料なし）

- ・市民ホールきりりと連携しており，実施に向けて前向きに検討してもらっている。館の主催事業とも連携した取組も考えられる。
- ・楽器の運搬，特に大型楽器の手配が必要になる。
- ・上記①～③について，今後，関係者に説明しながら取り組む。おおまかなスケジュールとして，1学期間に準備を整え，2学期から試行できればと考えているが，準備が整った場合は1学期中に始める場合もある。

◆取組の報告に係る質問，意見

委員：指導者の適格性についてどう担保するのか。地域指導者にも協会等の指導者ライセンスなど公的な講習を受けてもらい，一定のレベルを担保することも必要ではないか。

事務局：指導者の研修は必須と考えているが，今後検討する。意見の通り協会等の指導者ライセンスがあればよりよいが，そうでない場合も考えられるので，実施する研修の受講を最低条件としたい。また，協会等主催のライセンス取得には，時間と費用がかかり，その取得を必須とすると指導者の確保がより難しくなる。指導者研修の内容や在り方について県が示すことも考えられる。

委員：指導者への最低限の研修は必要。スタートコーチ制度（JSPO 主催）があり，この程度の資格を持つようにしてもよいのではないか。

事務局：どのような資質の人材を指導者にするのかは，アンケートでも課題とされており，共通の課題として理解されている。

委員長：やりたいことが安心してできる環境を作ることに向け，三次版の指導者認定研修を作り，指導者の資質を担保する方法を考えてもよい。

委員：文化部について，吹奏楽をまず試行し，対象を市全体と考えている。大勢で取り組む吹奏楽の醍醐味を味わわせたい。

委員：スタートは，最低限の資格で関われるようにするのがよい。また，指導者の確保について，報酬を明示して募集する必要がある。募集方法をどうするかも課題となる。また，受益者負担での運営を考えているのか。

事務局：指導者報酬を明示して募集する必要があると考えているが，本市は国や県からの補助金に頼らない事業実施を考えており，受益者負担や協賛金等を財源として考えている。よって指導者報酬やその他の運営費を勘案して，会費等を決めないといけない。

委員：三良坂地域から，みわ SC の事業に参加できるか。

事務局：できる。

委員：財源について，指導者報酬以外にも様々な経費が必要であり，それらの対価も当たり前前に補償できるようにならないといけない。財源確保の方法として，企業協賛金を募るのがよい。また，指導者研修について，そのチームに関わる指導者の代表が研修を

受けて他の指導者に伝えるという方法も考えられる。

委員長：受益者負担を原則とする考え方は以前に確認している。

委員：すでに子どもが地域で活動しており、親は子どもがやりたいことを応援する。様々な意見があるとは思いますが、移動の協力や会費などで報酬を負担することは当たり前と考えている。

委員：兄弟姉妹がいると保護者負担が大きくなるが、それを理由に「やめなさい」というようなことがあってはいけないと考えている。

委員：みわSCの現状について、会費は、「地域クラブで活動するのにこれくらいだったら払える」という金額に設定しており、財源の中心は指定管理や助成事業等に頼っている。謝金は市の謝金規定に合わせている。会員増で会費が増えると子どもの活動が充実すると伝えて、大人の会員を増やしている。今回のことを契機に事業に応じた受益者負担を考えていきたい。また、指導者研修は、三次版のような近くで資格が取れるようにしてもらえるとよい。

委員：地域の人たちが地域の子どもの活動を見るという、休日の中学校部活動の地域移行という認識でよいか。

事務局：言われたように、中学校部活動がベースにあるが、今回のことを契機に地域活性化に波及させたい。三次版地域移行では「機会を増やす」をねらう。地域での受け入れやスポーツクラブでの受け入れ、指導者を学校に派遣する方法など複合的に考えているが、その人がいなくなったらできなくなるような状況を回避するために、組織的な対応を行いたい。

委員：三和、甲奴地域に続いて、次にどこが始めるのかも問題と考える。

委員：吹奏楽では、部員が多い学校には指導者を派遣する方法もあれば、少なればきりりに集まる方法もある。また、市内への広がりを見ると、受け皿となれる団体を探すことも必要と考える。

委員：これから、休日の部活動を地域に移行していくということでよいか。

教育長：令和7年度末までの複数の地域移行をめざすが、将来的には学校から切り離す状況が考えられる。現時点では、休日やれるところ、やりたい部活動からやるのが大切と考える。やってみることで課題が見える。壁になっているのは、部活動が教育活動の一環であるという意識であり、教職員の意識改革も求められる。さらに、参加者は本市だけでなく隣接する広域地域を対象とし、やれるところから取り組みたい。

委員：団体スポーツでは、休日のみの参加になるとコミュニケーションが難しく、結果、子どもがしんどくなるのではないか。例えばサッカーでは、平日を含めた活動を考えた

教育長：それができる状況が整ったら、参加したい生徒を受け入れてほしい。

委員：現時点でも柔道や水泳は平日も含めて地域の活動になっており、これから徐々に平日も含めた移行になるのではないか。会費等の話があったが、休日だけであればできそうだと思う。

委員長：国等の動向に関係なく、三次版としてできる地域・種目からやればよい。全て準備が整ってから始めるということでは迅速な取組とならない。まず、スタートすることが重要である。

指導者問題も、発足してから資格を取りに行ったり、学び合ったりしながら進めたらよい。甲奴もまずは野球から始めるので良いのではないか。

委員：地域移行には学校の意識改革が必要である。現在進めているコミュニティスクールの考え方と似ている。保護者・学校・地域への説明について教えてほしい。

事務局：取組みの考え方や方向性について、甲奴中学校保護者、みわスポーツクラブ役員、甲奴中学校と三和中学校にも説明している。また、市中学校長会にも説明している。今後、現在進めている地域をはじめ、各関係先に丁寧に説明をしていきたい。

委員長：部活動指導員の配置について教えてほしい。

事務局：11名の部活動指導員を任用、配置している。この制度の活用も考えられる。

委員：休日の部活動移行では、平日は学校部活動で活動するが休日の活動はしない生徒がいるのではないか。そうすると、特に団体競技では大会への参加も課題となることが考えられる。このような課題となることの説明・周知も必要だと思う。

(3) 令和6年度の取組と今後のスケジュール(資料6) (事務局説明)

(4) 令和6年度検討委員会開催予定(資料7) (事務局説明)

委員長：取り組めるところから始める。その中で課題を洗い出し、情報共有して進めていきましょう。

3 その他

4 閉会

迫田教育長：学校は学校の役割を果たすことが求められており、休日の部活動の地域移行は、引っ張ってくれる地域・人がいるところから取り組む。アンケートでは子どもの思いが明らかになった。子どもたちの満足度を高めたい。そして、この取組が子ども・保護者・地域の満足度に繋がっているかという視点も大切である。また、行政の役割として、人材バンクの運営や積極的な情報発信も必要と考えている。国・県の動きを待っていても前に進まない。本市独自の動きを作りたい。